

検査科便り

第6号

2017年9月 発行



心房細動とは？

心房の筋肉に異常が生じると、洞結節以外の様々な場所から電気の刺激が発生するようになったり、異常な電気の通り道ができて、心房内で無秩序な電気の刺激が起こります。そうすると、**心房はぶるぶると痙攣を起こすように震えること**になります。

正常の心臓では洞結節から心房、心室へと電気が流れますが、この心房の様々な場所から出た電気信号は、全てが心室に伝わるわけではありません。房室結節という、心房と心室の間にあるところで、電気の流れが調節されて、刺激が伝わったり伝わらなかったりするので、心室の収縮が一定のリズムではなく不規則になります。



この状態の心房は心室へ血液を正常に送り出すことが出来ず、心房の中で血液の流れが滞ります。このため、**心房の中に血栓が出来やすくなります**。心房で作られた血栓は血流によって脳に運ばれ、脳の血管で詰まると、その先の脳組織に血液が運ばれなくなり、**脳梗塞**を起こします。

心房細動が脳卒中を起こすしくみ

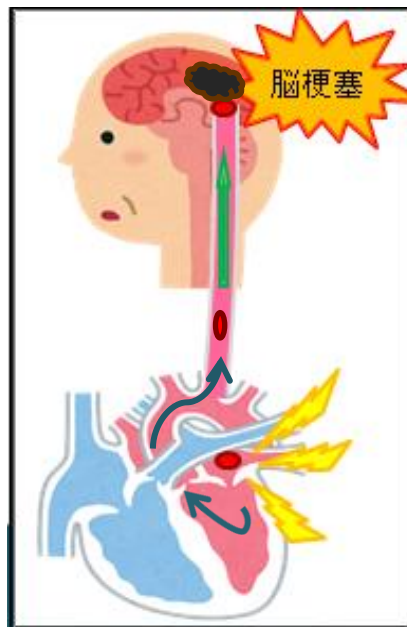
心房内に血栓ができる

血栓が心室を通り大動脈へ

頸動脈へ血栓が飛ぶ

脳の血管で血栓が詰まる

脳梗塞



糖尿病教室のお知らせ

2017年10月2日(月) 14:00~

西館3階会議室にて自己血糖測定についてお話をします。皆さんぜひご参加下さい！

横浜新都市脳神経外科病院 検査科

こんにちは、検査科です！

7/12に開催された「しんとし健康セミナー」では『脳卒中の危険因子を探る』というテーマで講義を行いました。今回はセミナーでお話した内容の中から脳梗塞の危険因子のひとつである、**心房細動**について説明します。

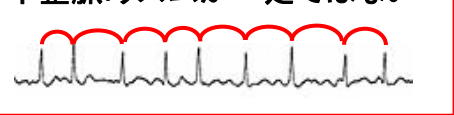
心電図検査でわかる心房細動

心電図検査とは心臓が拡張と収縮をする時に発生する電流を記録する検査です。正常であれば一定のリズムで動いている心臓ですが、不規則なリズムで心臓が動いている場合に心電図検査では分かりやすく記録することが出来ます。リズムが一定ではないものを不整脈といいます。不整脈にも色々種類があり、脳卒中の原因となる血栓が心臓内にできてしまうのが**心房細動**という不整脈です。

正常:リズムが一定



不整脈:リズムが一定ではない



正常な心臓の動き

心臓は、4つの部屋に分かれています。上の方の2つの部屋を**心房**といい、下の方の2つの部屋を**心室**といいます。心臓の動きは、心拍数を決める、いわゆるペースメーカーの役割をしている**洞結節**から始まります。

洞結節からの刺激は1分間に60~100回のペースで、規則正しく起こります。

この**洞結節**から刺激が出ると、電気が流れてまず**心房**が収縮します。電気の流れは**房室結節**を通して**心室**にまで伝わり、**心房**の収縮に続いて、**心室**が収縮します。

このように、**洞結節**から出た電気の刺激が、**心房**⇒**心室**に伝わっていくことが繰り返されて、心臓は一日中動き続けています。

